

## 事例紹介大学等のプログラム概要

### 【九州・沖縄地区】

#### 1. 長崎大学

プログラムの名称	学生が自ら育む人間関係力醸成プログラム —学生の自立的行動を大学と地域が協働して取組む支援
(プログラムの概要) 長崎はその昔から、全国から若者が蟻集して勉学に励み、町の人々も彼らを温かく迎えた。すなわち、長崎は町全体が学校であり、若者を育てた。21世紀の今、長崎の人々、長崎県・長崎市、長崎大学が協働して、「学生の人間関係力」を育てる。 長崎には「おくんち」を始め、数多の伝統ある地域行事がある。しかし、その行事は準備期間も含め約6ヶ月を要し、かつ若年者が不足しているため、地域伝統行事の維持が危ぶまれている。 本プログラムは、「学生顧客主義」の標語の下で、本学学生が地域伝統行事に参加して、その維持に力を尽くしてきた町の人々や豊富な知識と経験を持つ市民からなる「長崎大学応援団」の指導・連携・協力のもとに、昔の町内の若者頭的な役割を果たせるよう「やってみゅーでスク」を組織して取組む。 地域の古老、指導者、子供たちと祭りの企画・準備等により、学生の「人間関係力」の醸成と、地域行事の活性化・リニューアルが期待される。	

#### 2. 沖縄大学

プログラムの名称	学びあい・支えあいの地域教育の拠点の創生 —地域ぐるみで「共創力」を育む学生支援
(プログラムの概要) 本学は「地域に根ざす」ことを基本理念とし、「競争力(知識量)よりも共創力(参画意欲)」との教育方針に基づき、2000名程度の多様な学生が在籍している。しかし沖縄の状況を反映して、中途退学率が高く、学生支援のニーズが極めて高い。そこで本学の小さな規模を活かし、教職員と学生が共創して「学生ユイマール」(相互扶助)の場を広げ、学生たちが「学びあい」「支えあい」を実現する「地域教育モデル」を確立したい。「地域教育力再生」という社会的ニーズにも応えるために、多様なピアサポート制度を活用した学生参加型の「地域教育」を実践してゆく。「大学教育」も「地域教育」の一環であると位置づけ、学生同士が学びあい、支えあう共創活動をキャンパスの内外で展開し、沖縄本島南部を中心とする地域全体をキャンパスの場とする構想である。「地域教育センター」の新設によって、地域ぐるみで「共創力」を育む学生支援を実践することを試みる。	

#### 3. 佐世保工業高等専門学校

プログラムの名称	高等専門学校での特別支援教育推進事業 —発達障害のある学生に対する支援に関する共同的取り組み
(プログラムの概要) 技術者教育において、理工系学生に多いといわれる発達障害を持つ学生への教育支援は、さまざまな能力や特性を持った人々が共生できる社会を形成するために、解決すべき重要な課題である。本プログラムは、発達障害のある学生に対する具体的な支援の在り方に関して、支援実績が豊富な佐世保工業高等専門学校と、調査・研究活動において先進的な業績を有する釧路工業高等専門学校が共同事業として実践的に取組み、高等専門学校全体における特別支援教育体制の整備・拡充を図る。そのため、両校が、発達障害のある学生に対し、その状態に応じて、修学支援、就労支援、ソーシャルスキル・トレーニングやメンタルケアなどの生活支援を、外部専門機関等と連携を取りながら実施し、その取組みを相互評価することにより、実際に稼動する特別支援教育システムを構築する。	